

みんなでハッピーホースライフ！

ー馬活動室ボランティアグループ

	代表者	藤原優美（共獣B 5年）
構成員	熊谷駿太（共獣B 6年）	齋藤理紗（共獣B 5年）
	國貞宥妃（共獣B 4年）	中山紗希（教育B 4年）
	外川智周（共獣B 3年）	斯波はるか（国際B 2年）
	原田茉咲（理学B 2年）	大前愛（教育B 1年）
	秋山美桜菜（人文B 1年）	小林静梨（人文B 1年）
	中川康平（人文B 1年）	長尾健太郎（人文B 1年）
	西坂雄（人文B 1年）	前田桃花（農学B 1年）
	吉村大楠（農学B 1年）	井上和（共獣B 1年）
	上野翼（共獣B 1年）	藤尾幹（共獣B 1年）
	藤野笑麻（共獣B 1年）	田中萌愛（共獣B 1年）
	中村流佳（共獣B 1年）	奥村竣（工学B 1年）
	村田英生（工学B 1年）	

1. 本プロジェクトの目的

心に癒しを求めている人々にやすらぎを与えるホースセラピーに注目し、構成員のみならず地域の人々に対しても心身の健康をもたらす社会貢献活動を主たる目的として 2021 年 4 月にサークル（名称：ホースヒーリングサークル）を結成した。本プロジェクトは同サークルで考案したプロジェクトであり、馬活動室ボランティアグループも同サークルメンバーで構成されている。

馬の手入れ、観察、飼養管理、厩舎管理などを通して障がい者の精神機能と運動機能を向上させ、社会復帰を早めるリハビリテーションに寄与する。障がいのある子供達の明るい未来につながる活動として「ホースアシステッドセラピー教室」を開き、大きく3つの目標（以下3つ）を掲げ活動を行う。1) 馬と関わることでリラックスし、自分の気持ちが落ちついていく様子を体験し情緒の安定を目指す。2) 馬の世話により馬の気持ちを察し、行動の仕方を知ることによって人間関係の形成に貢献する。3) 引き馬や厩舎作業等で周りの人と主体性のあるコミュニケーションを取る。また、障がいのある子供たち以外にも馬と触れ合う機会を作っていく、活動の幅を広げていく。具体的には、子供や馬が楽しめるよう DIY に工夫を凝らすこと、馬の堆肥を活用し馬-土-野菜-人の循環を体感すること等をこの会に取り込み、多面的に馬と社会がにつながる仕組みを考案・実現していく。

2. 活動内容

2. 1. ホースアシステッドセラピー教室

ホースアシステッドセラピー教室は4月9日、5月7日、6月4日、7月2日、9月3日、10月8日、11月5日、12月3日、3月4日の計9回開催した。8月、1月はそれぞれ山口大学教育学部附属特別支援学校が長期休暇中のため開催はしていない。また、2月4日は山口大学内での新型コロナウイルス感染症の感染者拡大に伴い中止に至った。

山口大学馬活動室 ホース・アシステッドセラピー教室

現在、社会のストレスが強まり、日常生活におけるメンタルヘルスが大きな問題となっています。馬との触れ合いには、癒しの効果他にも障害者の機能を改善する効果が知られており、馬は障害者乗馬や馬セラピーなどに広く利用されています。山口大学では、馬を飼育する環境を有しており、ホース・アシステッドセラピーを実施するための施設、インストラクター、スタッフなどの整備を実施いたしました。今回、山口大学教育学部附属特別支援学校の生徒さんを対象として下記の日程でホース・アシステッドセラピー教室を開催いたします。

日時	2021年4月9日(金) 13:30-14:30 (以下同時間帯)
	5月7日(金)
	6月4日(金)
	7月2日(金)
	9月3日(金)
	10月10日(金)
	11月5日(金)
	12月3日(金)
2022年	2月4日(金)
	3月4日(金)



場所	山口大学吉田キャンパス馬場 (山口市吉田1677-1)
服装	うごきやすい服装 (長袖、長ズボン、帽子、軍手、長靴など)
持ち物	飲み物、手拭きハンカチなど
インストラクター	池邊有紀 (RDAJapanインストラクター)
実施内容	馬との触れ合い、馬の特徴フロンポイント学習、エサやり、馬房掃除体験、馬ひき (障害者乗馬)、写真撮影など
問い合わせ先	山口大学共同獣医学部学務係 〒753-8515 山口県山口市吉田1677-1 電話 083-933-5808 F a x 083-933-5812 E-mail vegakumu@yamaguchi-u.ac.jp



図1 ホースアシステッドセラピー教室の案内

教室では RDAJapan インストラクターの指導のもと、餌やり体験、引き馬体験、放牧馬の観察などの馬との触れ合いのほか、餌の準備、ボロ取りなどの作業といった大きく分けて2つの異なる体験をするために、それぞれの生徒に合ったスケジュールを立てて実施してきた。積極的な生徒から馬に触れるまで時間がかかる生徒までいるため、生徒1人に対しサポーター1人と特別支援学校の先生1人または2人が付き活動を行った。初めは馬に近づくこともできなかった生徒が複数回の参加によって自ら馬のもとに駆け寄り馬に触れることもできるようになった。活動中の事故や怪我を防ぐために、生徒にとって視覚でわかりやすいスケジュールや注意事項の提示をしている。視覚で伝えることで自閉症などの生徒にも理解しやすい工夫をしている。(図2、図3)

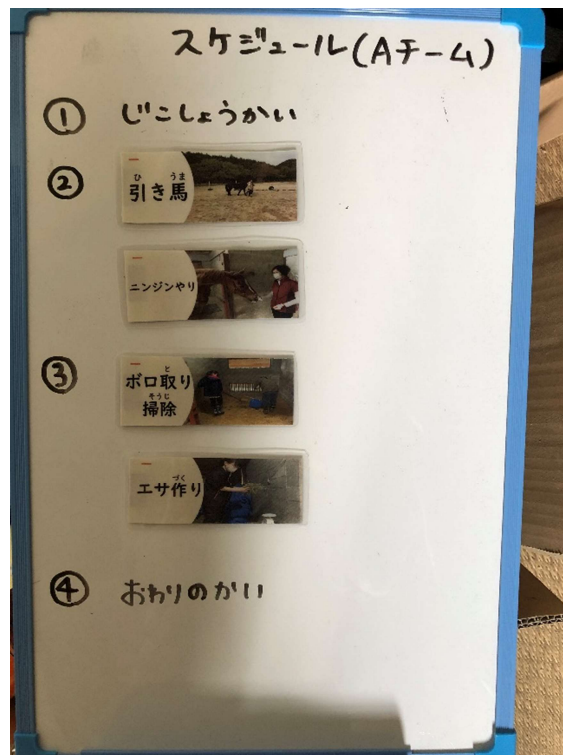


図2 「ホースアシステッドセラピー教室」のスケジュール例

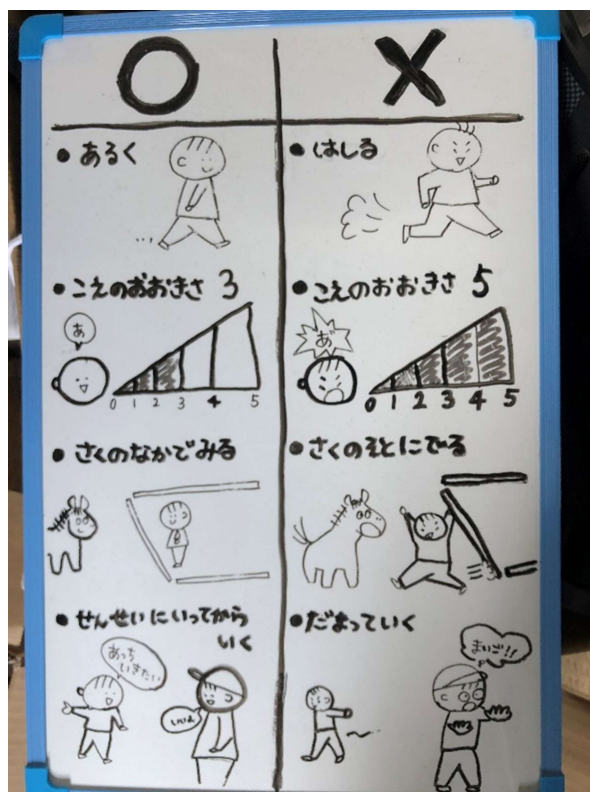


図3 セラピー教室の注意事項

また、次回以降の教室に活かせるよう担当した参加生徒の記録をつけ、特別支援学校の先生にもフィードバックしている。

[illegible]

図 4 参加生徒ごとの記録用紙

畑で収穫したサツマイモをホースアシステッドセラピー教室に参加した生徒にプレゼントした。馬のオヤツ用

に育てていたニンジンをはじめとする、様々な野菜は8月の豪雨による浸水で駄目になってしまったため、来年度以降は対策が必要だ。



図5 サツマイモ収穫



図6 野菜収穫

2. 2. ヤマミィ学級

ヤマミィ学級は1月5日に開催した。第1回は8月20日に予定しており13人の小学生が夏休みの課題として「馬の絵を描こう」を企画していたが、天候不良のため中止となった。1月5日では小学生17人が参加し、にんじんやり、ブラッシングなどで馬との親交を深めた。全員がその日のうちに馬に触ることができるようになり、達成感が得られたとの声をいただいた。



図7 餌やり体験の様子

(プライバシー保護のため当日参加した小学生の写真は撮影しておらず、この写真は別日に撮影し保護者に許可をいただいたもの)

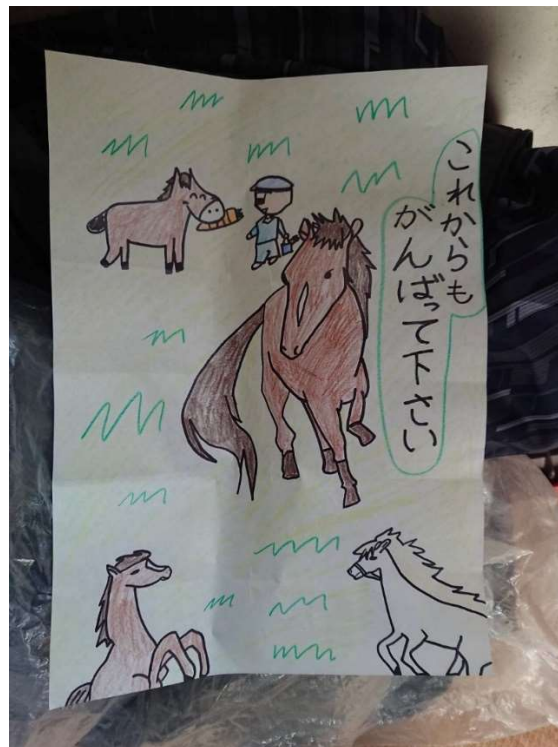


図8 参加した小学生からの手紙

2. 3. トムソーヤーズコラボレーション企画「山大探検」

12月18日初めてのコラボレーション企画として、山口大学内のサークル「トムソーヤーズ」による小学生対象のイベント「山大探検」の目的地のひとつとして厩舎が選ばれた。全グループ(5班)が馬に会いたいと選択したそうで、馬たちの人気に私たちも驚いた。楽しかった目的地としても1番人気だったらしく、来年もぜひ企画させてほしいとの声をいただいた。このように他のサークル等とのコラボレーション企画も増やしていきたい。

2. 4. 活動PR・報道

5月25日発行の宇部日報、山口大学広報 Academi-Q No.11 12月号、12月31日オンエアのFM山口「大人ウォーク」にて取材の依頼をいただき、ホースヒーリングサークルを紹介した。様々なメディアを通してホースセラピーの効果、今後の展望、競走馬や馬術競技以外にも馬の活用方法があること等を学内外で伝えることができ、私たちのような馬と人が共生していく社会が全国で実現していくために1歩前進した。各メディアは下記参照。

宇部日報「このまちメディア Web」（5月25日発行）「山口大で「ホースセラピー」 学生が社会貢献、馬と触れ合い心癒やす」

山口大学広報 Academi-Q （No.11 12月号）[「学び」の楽しさを見つける「Academi-Q \[アカデミック\]」 | 国立大学法人山口大学 \(yamaguchi-u.ac.jp\)](#)

FM山口「大人ウォーク」（12月31日オンエア）ホースヒーリングサークルについて／ウィズコロナ時代に適合したオンラインでの Hands-on 実習システムについて



図9 宇部日報取材の様子

3. 今後の活動

今後もホースアシステッドセラピー教室、ヤマミィ学級、他団体とのコラボレーション企画を続け、学内外でホースセラピーを提供していきたい。セラピー対象者としては障がいの有無を問わず、セラピーを必要とするすべての人々に届けられるよう活動を広げていく。



図10 普段の活動の様子